令和４年度　農山漁村振興交付金事業　実績報告書
（農福連携対策のうち普及啓発等推進対策事業）
（農福連携の「福」への取組拡大等の推進）

【目　次】

１．今後の取組拡大に資するような障害者等に対する農作業体験実習等の提供モデル
（１）都市部在住の当事者が地方へ出向いて農作業を行う取組　・・・・・・２
（２）同一地域在住の当事者が取組主体に出向いて農作業を行う取組
①　社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会
さんさん山城（京都府京田辺市）・・・・３
（３）スタディツアーの取組
①　埼玉福興 株式会社（埼玉県熊谷市）・・・・・・・・・・・・・・・・・６
②　社会福祉法人 ゆずりは会　菜の花（群馬県前橋市）・・・・・・・・・９
③　京丸園 株式会社（静岡県浜松市）・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
④　社会福祉法人 博愛会　住吉浜リゾートパーク（大分県杵築市）・・１５

２．障害者等に対する農作業体験実習等を提供可能な農福連携の取組主体
（１）社会福祉法人 白銀会（茨城県石岡市）・・・・・・・・・・・・・・・１８
（２）社会福祉法人 ゆずりは会　菜の花（群馬県前橋市）・・・・・・・・・１９
（３）社会福祉法人 土穂会　ピア宮敷（千葉県いすみ市）・・・・・・・・・２０
（４）埼玉福興 株式会社（埼玉県熊谷市）・・・・・・・・・・・・・・・・２１
（５）ＮＰＯ法人 支援センターあんしん（新潟県十日町市）・・・・・・・２２
（６）京丸園 株式会社（静岡県浜松市）・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
（７）社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会
さんさん山城（京都府京田辺市）・・・・２４
（８）社会福祉法人 青葉仁会（奈良県奈良市）・・・・・・・・・・・・・・２５
（９）社会福祉法人 博愛会　住吉浜リゾートパーク（大分県杵築市）・・・２６

３．事業実施結果の検証及び今後の方向性等・・・・・・・・・・・・・・・・２７

１．今後の取組拡大に資するような障害者等に対する農作業体験実習等の提供モデル

（１）都市部在住の当事者が地方へ出向いて農作業を行う取組

①　取組のねらい

農福連携の「福」への取組拡大を加速させるため、生活圏内に農地が少なく農業に馴染みがない都市部在住の障害者が、農業現場を将来の就労の場として選択することに資する機会提供。また、補助事業終了後、民間事業として自走できるモデルとすること。

②　企画概要

体験ツアーの実施場所は、全国的な広がりを持たせるため群馬県前橋市（ゆずりは会菜の花）、静岡県浜松市（京丸園）、京都府京田辺市（さんさん山城）、大分県杵築市（博愛会）とした。なお、現地打合せでスタディツアーに適していると判断した埼玉県熊谷市（埼玉福興）も加えて、５カ所の設定とした。

体験ツアーの訴求対象は障害者を含む親子（基本設定は両親と高校生年代）とし、行程は誘引要素として観光色を濃くした（温泉等リゾート１泊+新幹線・特急列車　京都を除く）。

金額設定は、事業初年度ということで実績を得ることに重きを置き、自走可能性に配慮しながらも補助率７割程度と価格訴求力を高めた。

③　募集方法

福祉組織ルートとして、一般社団法人手をつなぐ育成会連合会の役員から紹介を受け、東京都育成会、静岡県育成会、名古屋市育成会、大阪市育成会、福岡市育成会の各事務局へ募集依頼。募集方法は、各組織の会合での周知や支部役員から親御さんへの伝達等。募集開始時期は１月中旬。

また、次年度取組の連携も含め福岡県教育委員会特別支援教育課に特別支援学校の行事として大分県の福祉施設へ出掛けられないか尋ねたところ、やれるとすれば県内であると明言された。

④　募集結果

結果として集客数はゼロであった。原因等は後段で分析する。

（２）同一地域在住の当事者が取組主体に出向いて農作業を行う取組

①　社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会　さんさん山城

ア　法人概要

所在地	京都府京田辺市興戸小モ詰１８－１		
代表者	施設長　新免　修	開所年	平成２３年
主産品	茶、なす、えびいも	耕作面積	１.２ha

イ　取組主体の選定理由

（ア）農福連携に取組む先進事業所のなかでもトップリーダーのひとつであること。

（イ）全国的に取組の広がりを持たせる意味から、西日本の取組主体のひとつとして選択した。

ウ　遠隔地募集で結果が得られず福祉事業所ルートで近地募集を行う

農福体験ツアーとして２月１１日・１８日・２５日の各日実施で、募集ルートを「一般社団法人　全国手をつなぐ育成会連合会」役員から大阪市の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。

募集対象を事業所とつながりのある大阪府・京都府の特別支援学校とした結果、南山城支援学校高等部（精華町）の２年生男子生徒３名がそれぞれ母親とともに参加した。

エ　参加者の申込み経緯

同校では体験実習カリキュラムでもさんさん山城に生徒を派遣しており、現在卒業生が２名同事業所で就労している。今回は事業所施設長から同校進路指導担当教諭に依頼し、進路指導面接の場で生徒の母親に勧めてくれ参加に至った。

オ　体験プランの概要

〇実施日　令和５年２月１８日（土）

〇行　程　さんさん山城集合

午前、圃場にて「京の花菜」収穫体験

昼食はコミュニティカフェにてワンコインランチ

午後、施設にて濃茶大福づくり体験

〇負担金　昼食代実費

カ　当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	体験風景
①農福体験ツアー開会 　主催者・受入施設から挨拶。 ②「京の花菜」の圃場 　担当者から作業説明を受け、参加者各自が収穫用はさみで収穫。 ③大根の圃場 ④「京の花菜」の調整作業 　定規を当てて決まった大きさに切り揃える。二枚葉を残して調整する。155－160g の目方で袋詰め。シール貼り。	 ②「京の花菜」の圃場 ④「京の花菜」調整作業
⑤コミュニティカフェで昼食 　ハヤシライスとサラダのワンコインランチ（コミュニティカフェでは、さんさん山城で育てた京野菜や地域特産品を使った日替わりワンコインランチを提供しています）	 ⑤ワンコインランチ
⑥茶畑見学（碾茶） 　抹茶の原料。ゴールデンウイーク明けに、年に一回手摘みで茶摘みを行う。 ⑦玉葱（種蒔）、えび芋の圃場見学 ⑧抹茶クッキーづくり体験 　棒状の生地をスライス。７枚×５列を天板に並べる。オーブンで１７分焼く。 ⑨濃茶大福づくり体験 　餡と抹茶をこねる。２０g を計って丸める。餅粉と砂糖と水で皮づくり。餡を皮で包む。 ⑩参加者集合 　事業所玄関前で記念撮影。	 ⑥茶畑見学 ⑧抹茶クッキーづくり ⑨抹茶大福づくり ⑩参加者集合

キ　アンケート結果

１．農福連携についてしていましたか。
　知っていた（３）　知らなかった（０）

２．これまで農作業に携わったことはありますか。
　ある（０）　ない（３）

３．今回の体験ツアーに参加してみていかがでしたか。
　楽しかった（３）　楽しくなかった（０）　その他（０）

４．特に印象に残った作業があれば教えてください。
○花菜摘み、大根引きが楽しかったです。とても良い経験になりました。
○どの作業も楽しんでできました。特にクッキーを切る作業が楽しかったようです。またこのような機会があれば参加したいです。
○花菜収穫と花菜袋詰め。クッキーづくり、大福づくり。

５．今回のツアーに参加してみて、農福連携に興味を持ちましたか。
　興味を持った（３）　持たなかった（０）

６．今後も同様の企画があれば参加したいと思いますか。
　思う（３）　思わない（０）

７．ご意見、ご要望、感想等
○卒業生に会えて嬉しかったです。
○ハヤシライス美味しかったです。

（３）スタディツアーの取組

①　埼玉福興 株式会社

ア　法人概要

所在地	埼玉県熊谷市弥藤吾２３９７－８		
代表者	代表取締役　新井利昌	創立年	平成８年
主産品	葱の苗、オリーブ製品	耕作面積	４ha

イ　取組主体の選定理由（当初よりスタディツアーとして選定）

（ア）事業の位置づけがソーシャルファームであり、「福」の広がりを体現している法人であることから、体験に留まらず多様な方面の学びのニーズに応えられるであろうこと。触法障害者を受け入れ、農作業のリーダーとして育成し更生に成功するなど、刑務所出所者等の農福連携事業所での先行優良モデルであること。

（イ）農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

ウ　スタディツアーの概要

○実施日　令和５年３月２日（木）

○行　程　熊谷駅集合
タクシーにて「埼玉福興」へ移動
午前、点在する圃場・施設および
提携している特例子会社を視察
昼食はグループホームの食堂にて
（薬膳料理のランチ）
午後、藍染体験と質疑応答
終了後、タクシーで熊谷駅へ

○負担金　参加費 1,000 円、昼食代実費

エ　スタディツアーの参加法人

法人種別	参加者数
保護司会	3
社会福祉法人	2
更生保護法人	5

オ　当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
①主催者挨拶、オリエンテーション ②長葱の苗床ハウス 　300 農家に苗を供給。農家を支える農業。 ③オリーブオイル搾油作業所 　世界レベルの賞を受賞。 ④苗テラス（玉葱の苗床づくり） ⑤ハウス（ほうれん草水耕栽培） 　年間 17 回転。知的・精神・保護観察混在。 ⑥イーピーエス社の特例子会社の圃場 　ジャガイモ植付。３年前に３名でスタートし、現在 18 名に。埼玉福興と多層的に連携。 ⑦イーピーエス特例子会社の社屋（旧牛舎） 　障害者社員は、50mの距離にある埼玉福興運営のグループホームに居住。 ⑧オリーブ畑 　無農薬・無肥料のオリーブ畑。ローマ法王に献上された菓子に埼玉福興のオリーブの葉が使われている。	 ②長葱の苗床ハウス ③オリーブオイル搾油作業所 ⑥イーピーエス社の特例子会社圃場 ⑦同社の社屋 ⑧オリーブ畑
⑨グループホーム　クラリスホームの食堂 ⑩薬膳ランチ 　五穀米、深谷ネギ、揚げ豆腐、菜の花和え、ポタージュスープのラインナップ。彩りの摘みたて菜の花もそのまま食す。藍染の指導者も務める猪爪氏考案のメニュー。	 ⑨クラリスホーム食堂 ⑩薬膳ランチ
⑪藍染工房 　クラリスホームの敷地内に建てられた工房。ストールなどの製品もここで染められる。埼玉福興では藍の栽培も行っている。 ⑫藍染体験 　５人ずつ２組に分かれて体験。	 ⑪ 藍染工房 ⑫藍染体験

カ　アンケート結果

■「埼玉福興」が取組んでいるソーシャルファームについての感想

○今後のソーシャルファームの方向性について大変勉強になった。
○農業で障害者や触法者の働く場所があり、農家の支えになっていること、ステップアップとして雇用として働く場もあり、地域・企業とともに連携している理想的なソーシャルファームだと感じた。農業を通して地域の活性化にもつながっていることを感じた。
○場所の広さや扱う種類の多さなど、想像以上の規模に驚いた。利用者が自主的に関わっている姿も印象に残っている。
○７～８年前に訪問し２度目だったが、特例子会社との有機的な連携、オリーブの森の発想、エコツーリズムなど発展形で驚きとともに感動した。確実に次の担い手が育ち、支援者・被支援者の垣根なく地域の発展と一体化しているところが素晴らしかった。
○持てる組織や人を結びつけられていること、互いが活かされていること、相応の利益が上がっていること、楽しそうにやっていること、さらに社会課題の解決まで目指していることなど素晴らしいの一言。
○持続可能な社会を考えるうえで、たくさんのヒントがあった。

■スタディツアーの提案先として想定できる組織

○各保護司会に声掛けして、スタディツアーをすることや、更生保護女性会などの見学もよいと思った。
○全厚連では次年度、農林水産業連携事業部を設ける予定なので、住まいと就労、自立支援と様々な立場から力を出し合えば、さらに面白いことができると思う。
○全国更生保護法人連盟、就労支援事業者機構と関わっていただき、提携可能な取組にしていきたい。
○福祉系の大学。

■その他　ご意見・ご要望

○農業の持つ潜在力やすばらしさを感じた。人に合わせて仕事を作っているというのはすばらしいと思った。
○藍染体験を含め、様々な「現場」をみせていただき、学ぶことが多かったが、最初に事業の「全体像」的なものを少し説明していただくとより理解が深まったように思う。

② 社会福祉法人 ゆずりは会　菜の花

ア　法人概要

所在地	群馬県前橋市青梨子町６６８－２		
代表者	施設長　小淵　久徳	開所年	平成２６年
主産品	枝豆、玉葱、ブロッコリー	耕作面積	１４ha

イ　取組主体の選定理由

（ア）農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

（イ）首都圏から１泊圏内で、車で３０分程の距離に温泉地（伊香保温泉）もあり、観光要素を加えた農福体験ツアーを、障害者を持つ家族に訴求する場合、立地が適していること。

ウ　遠隔地募集で結果を得られずスタディツアーへ転換

農福体験ツアーとしては２月３日出発１泊で、募集ルートを「一般社団法人　全国手をつなぐ育成会連合会」役員から東京都の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。その後、ＪＡグループ全国機関、農福連携に関心のある企業等の農福連携担当窓口にスタディツアーへの参加を打診したところ、参加者６名となった。

エ　スタディツアーの概要

○実施日　令和５年３月１６日（木）

○行　程　高崎駅集合
タクシーにて「菜の花」へ移動
午前、点在する圃場・施設を視察
昼食は近隣のベジレストランにて
（「菜の花」の野菜を使ったランチ）
午後、施設にて質疑応答
終了後、タクシーで高崎駅へ

○負担金　参加費 1,000 円、昼食代実費

オ　スタディツアーの参加法人

法人名	参加者数
全国農業協同組合連合会	1
農林中央金庫	2
全国共済農業協同組合連合会	1
ＪＡ共済総合研究所	2

カ　当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
①顔合わせ、自己紹介 　参加者・理事長・施設長から自己紹介。 ②枝豆の圃場 　法人全体で 10ha。JA のシェア約 5 割。5 月下旬収穫分は最高値で 400 円/袋。平均 200 円。 ③ライスセンター（乾燥、苗床） 　乾燥機は JA からの払下げ。個別乾燥。 ④長葱の調整 　ベルトコンベアを使っての調整作業。 ⑤規格外品を調整 　近隣にある女性少年院に規格外品を納品。 ⑥田んぼ 　小学 5 年生の総合学習用(田植え・稲刈り)。 ⑦コイン精米機 　30 kgで 200 円。格安料金設定。 ⑧長葱種蒔ハウス ⑨グループホーム 　菜の花と通りを挟んで目の前。5 年前設置。 （ここから「ゆずりは」の施設） ⑩泥葱調整 ⑪ビール麦、小麦の畑 　ビール麦は、京都の酒造会社の原料に。 ⑫土器洗い 　出土する土器を洗浄する内職所。 ⑬玉葱皮むき 　高圧噴射機で手際よく皮をむく。 ⑭近隣のレストラン 　「菜の花」から仕入れた野菜を使ったランチをご賞味。 ⑮意見交換会 　質疑応答、補足説明などを行う。	 ②枝豆の圃場 ③ライスセンター ④長葱の調整 ⑨グループホーム ⑪ビール麦、小麦の畑

キ　アンケート結果

■「ゆずりは会 菜の花」が取組んでいる農福連携についての感想

○利用者の社会参画に具体的に取組んでいる。
○工賃向上、利用者の意欲向上、効率化の取組、全てが繋がっている。
○周辺住民の理解を深めることも進めている。ＪＡ・企業との連携も進めている。
○地域の多様な組織との連携を構築し素晴らしい取組をしている。
○理念のシンプルさ、利用者目線の徹底、関係先の多様さに非常に感銘を受けた。
○高工賃を追求している点が非常に特徴的。働き甲斐はもちろんのこと、自らが生活するための給料を得る、自立するという観点を大事にしていて、それを農業で達成するという点が素晴らしい。

■参加法人の農福連携の取組計画、今後の連携の可能性

○日本農福連携協会、ＪＡ共済総研、ＪＡ共済連との包括連携協定による取組を推進する。
○年に７回ＪＡ共済マルシェを開催しているので、農福連携商品を取扱う（ノウフクマルシェのような回も設定したい）。
○ＪＡ、農業者サイドの農福連携の推進にかかる取組をする。
○農福連携への関心が高い県域や全農労働力支援ブロック協議会にスタディツアーを紹介することが可能である。

■その他　ご意見・ご要望

○故郷の群馬で素晴らしい取組をされていることに敬意を表する。
○皆さんが生き生きと働いている姿がとても印象的。
○福祉施設で作ったものだから安かろう悪かろうではなく、ＪＡの規格に合致するものを作ろうとしていることが素晴らしい。
○ＪＡにとってゆずりは会の存在が非常に助かっているということで、地域を互いに支えていると感じた。
○障害者の活躍はどういう姿を目指すべきかという観点で勉強になった。

③　京丸園 株式会社

ア　法人概要

所在地	静岡県浜松市南区鶴見町３８０－１		
代表者	代表　鈴木厚志	法人創立年	平成２６年
主産品	姫みつば、姫ねぎ	耕作面積	２.６ha

イ　取組主体の選定理由

（ア）農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

（イ）中京圏から１泊圏内で、車で３０分程の距離に温泉地（舘山寺温泉）もあり、観光要素を加えた農福体験ツアーを、障害者を持つ家族に訴求する場合、立地が適していること。

ウ　遠隔地募集で結果を得られずスタディツアーへ転換

農福体験ツアーとしては２月３日出発１泊で、募集ルートを「一般社団法人　全国手をつなぐ育成会連合会」役員から愛知県および静岡県の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。その後、農業に取組む特例子会社への集客、浜松市への集客依頼も行ったが、これも集客につながらなかった。最終的には、農福連携技術支援者に対してスタディツアーへの参加案内を送付したところ、１２名の参加者が集まった。

エ　スタディツアーの概要

〇実施日　令和５年３月２４日（金）

〇行　程　浜松駅集合

タクシーにて「京丸園」へ移動。

午前、圃場・施設を視察。

昼食は市内のレストランひらまつ亭にて「京丸園」の野菜を使ったランチを食べ、同所にて鈴木社長の農福講話を聴く。

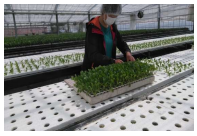
終了後、タクシーで浜松駅へ。

〇負担金　参加費 1,000 円、昼食代実費

オ　スタディツアーの参加法人

法人種別	参加者数
農福事業所	4
学校関係者	2
特例子会社	1
その他	5

カ　当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
① 顔合わせ、自己紹介 ② 鈴木社長より説明 障害者雇用が会社を発展させた。 ③洗い場 物を置かないゾーン（GAP の考え方）。右半身麻痺の障害者に合わせた機械の導入（誰でも操作できる機械）。 ④ チンゲン菜調整作業場 栽培面積を減らしたくないから栽培ハウス内には設置せず、ハウスとは別に作業場を設置 ⑤ チンゲン菜ハウス ハウス内の暑さ対策でミスト ⑥ チンゲン菜定植体験 集中力を確認するのに適している作業。 ⑦ 昼食 姫ねぎ、チンゲン菜、姫みつばの入ったプレートランチ。２つのテーブルに分かれて参加者同士の意見交換（鈴木社長、鈴木緑さんを交えて）。 ⑧ 鈴木社長により農福講話 衰退する農業を強くしたいという想い。強い農業を作るために戦略的に障害者に関わってもらいたい。 ⑨ 集合写真	 ②鈴木社長より説明 ③洗い場 ⑤チンゲン菜ハウス  ⑥チンゲン菜定植体験 ⑦昼食 ⑧鈴木社長より農福講話 ⑨集合写真

キ　アンケート結果

■「京丸園」が取組んでいる農福連携についての感想

○農業経営改革の見本であることを再確認した。特に重要なことは農業技術の深化の継続と新たな知見の探索の両面を実現化していること。京丸園さんは、福祉分野の方を経営の戦力とすべく業務内容を変革することで、物理的な時間を確保し、多様な知見に接する機会を得ている。
○様々な事例を現地調査しているが、農福連携を農業経営の改革まで反映させている経営体は稀である。
○どのように収益を生むのかについて、安定栽培ができる作物、ミニサイズで差別化、短い生育期間で回転率を上げる、というシステム作りに驚いた。
○障害者雇用について疑問に思っていたところが多くクリアになった。

■参加法人の農福連携の取組計画、今後の連携の可能性

○農業班５名の社員が９反の農地で露地栽培による野菜作り、水稲栽培に取組んでいる。障害者向け体験農園も行っている。
○農業体験と自社作物を使った食事をセットにしたプランを造成中なので、活用していただきたい。

■その他　ご意見・ご要望

○農福連携技術支援者の認定を受けた他の事業者の方と交流ができ、有意義であった。

④　社会福祉法人 博愛会　住吉浜リゾートパーク

ア　法人概要

所在地	大分県杵築市守江１１６５－２		
代表者	園長　釘宮　浩三	開所年	平成２２年
主産品	いちご	耕作面積	1,500 ㎡

イ　取組主体の選定理由

（ア）全国に取組の広がりを持たせる意味から、西日本の取組主体のひとつとして選択した。

（イ）マリンリゾート一帯を一括運営する同パークは、広大な敷地内にホテル・レストラン・観光いちご農園などを有し、農作業体験＋観光のモデルとして最適の施設であること。

ウ　遠隔地募集で結果を得られずスタディツアーへ転換

農福体験ツアーとしては３月３日出発１泊２日で、募集ルートを「一般社団法人　全国手をつなぐ育成会連合会」役員から福岡市の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。その後、大分県庁の農福連携担当である福祉保健部障害者社会参画推進室から県内の福祉事業所、農業経営体等に幅広く集客したが、結果はゼロであった。最終的に、九州の農福連携事業所、農福連携技術支援者に対してスタディツアーへの参加案内を送付したところ、４名の参加者が集まった。

エ　スタディツアーの概要

〇実施日　令和５年３月２６日(日)~２７日(月)

〇行　程

２６日　杵築駅集合。タクシー、自家用車にて「住吉浜」へ。

住吉浜マリンホテル内のセミナールームにて、ミニセミナーを開催。ツアースタッフとして同行した、ゆずりは会菜の花の小淵氏、NPO 法人たがやす理事で大隅半島ﾉｳﾌｸｺﾝｿｰｼｱﾑﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰの天野氏が登壇。同ホテルに宿泊。

２７日午前、就労継続支援Ａ型、Ｂ型事業所として運営されている住吉浜マリンホテルのオペレーションを見学。

昼食は同パーク内の海鮮ＢＢＱレストラン「キツキテラス」にて（就労継続支援Ａ型、Ｂ型事業所）。

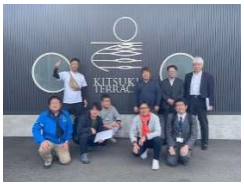
午後は意見交換・質疑応答。終了後、杵築駅へ。

〇負担金　参加費 1,000 円、食事代実費

オ　スタディツアーの参加法人

法人種別	参加者数
株式会社	2
ＮＰＯ法人	2

カ　当日のカリキュラムの様子

カリキュラム	視察風景
① ミニセミナー（２６日夕刻） ゆずりは会菜の花　小淵久徳氏 大隅半島ﾉｳﾌｸｺﾝｿｰｼｱﾑ　天野雄一郎氏 質疑応答 ② 住吉浜マリンホテル ４０名定員のＡ型、Ｂ型事業所。団体客中心にホテル事業。 昨年１０月に海辺のキャンプ場を開設。 客室管理、レストラン運営等、多彩な作業に取り組む。 ③ 浜イチゴ園 ハウス５棟に、１５ｍの液肥栽培施設が４５列配置されている。障害者３名、管理者１名のチームで全ての作業を担う。 農山漁村振興交付金を活用して加工施設を建設し、いちごのソース、アイスクリーム等の加工品を製造し、観光客に提供。 ④ キツキテラス Ａ型、Ｂ型として運営。年間の来客数は４万～５万人。客単価 3,000 円程度。接客、魚介類の下ごしらえ等、多彩な作業を障害者がこなす。大分県産の食材にこだわり、近隣のかき小屋と連携して「カキ街道」を形成し、地域活性化が進んでいる。	 ① ミニセミナー ② 釘宮園長の説明 ホテルの作業見学 ③ 浜イチゴ園 ④ キツキテラス  集合写真

キ　アンケート結果

■「博愛会」が取組んでいる農福連携についての感想

○農業から観光業まで幅広く障害者の皆さんが関わっている姿を見て感動した。同時に障害を持っていてもできることがあるので、可能性を引き出すこと、環境を整えることの重要性も感じた。
○ホテル・レストランの取組については非常に新しく、驚きが多かった。たくさんのヒントを持って帰れるというのと、今後の動機付けにつながった。
○規模が大きく、福祉で観光を営まれていることに驚いた。しっかりとした運営で、収益もすばらしい。見本となることばかりで、特にいちごは導入を検討していく。
○いちご観光農園はＢ型で運営されているところに、役割が分担され指示、理解が上手くできていると感じた。
○事務所や駐車場などもきちんと整備され、一般客も立ち寄りやすい条件が整っている。障害者施設とは思えないクオリティ。あえて前面に出していないところがとてもよいと感じた。安価な価格設定でリピーターにもなりやすい。

■参加法人の農福連携の取組計画、今後の連携の可能性

○農業法人への施設外就労や、さつまいもを使用したノウフクプロダクト（さつまいものレアチーズケーキ）などを販売している。
○農福のコーディネートや刑福の取組に取り掛かり始めている段階。
○ユニバーサル農園とキッチンカーの導入を検討している。
○近くのいちご団地での作業受託を行っているが、高齢化により離農されるため、事業所で継承していきたい。
○桜島での農福連携。
○米粉用米と山芋の連携。

■その他　ご意見・ご要望

○県外の農福連携はとても進んでおり勉強になる。考え方や取組など参考になるところが多く、利用者にとっての事業所を感じられる。
○自治体の協力や理解は、担当者や方針でかなり変わってくる。ただ、農福に取組む仲間の連携が素晴らしく、力になる部分が多い。

２．障害者等に対する農作業体験実習等を提供可能な農福連携の取組主体

（１）社会福祉法人 白銀会

法人概要			
所在地	茨城県石岡市鹿の子４丁目１６－５２		
代表者	理事長　長谷川淺美	法人創立年	平成２年
主産品	豆類、なす	耕作面積	４ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇白銀会の旗艦施設が石岡市の「しろがね苑」であり、周囲に４町歩の畑を借り受けて農業に携わっている。

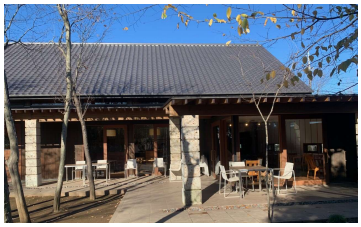
〇鉾田市に多機能型事業所「たいよう」を運営している。農作業は農家への施設外就労で、メロンやブルーベリー、トマト、ラッキョウなどを扱っている。

〇しろがね苑から車で１分の距離に、イタリアンレストランの「トラットリア・アグレステ」を運営している。建材に木材と石材をふんだんに使用したこだわりの空間が広がっている。

〇特徴的な取組として、企業の障害者雇用の課題解決の仕組みとして、日立建機㈱と白銀会とで農業生産法人を設立し、その運営は白銀会が担っている。日立建機が雇用する障害者を農業生産法人に出向させ業務にあたっている。その障害者は白銀会が供給する。白銀会が運営するグループホームに居住する方もいる。

しろがね苑周辺に広がる畑

ハウス内の作業所



トラットリア・アグレステ

たいようの利用者が働くメロン農家

（２）社会福祉法人 ゆずりは会　菜の花

法人概要			
所在地	群馬県前橋市青梨子町６６８－２		
代表者	施設長　小淵　久徳	開所年	平成２６年
主産品	枝豆、玉葱、ブロッコリー	耕作面積	１４ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇高工賃などが評価され、ノウフク・アワード２０２１で審査員特別賞、２０２２ではグランプリを受賞。農福連携の世界で、名実ともにトップランナーのひとり。
〇事業所スタート当初は内職、ＰＣ解体、土器清掃などが主な作業であったが、現在は売上の９０％が農業。
〇農産物のうち８０％が野菜。主にＪＡへ出荷。地域農業の中核となっている。
〇農福連携自然栽培パーティー全国協議会に加盟し、無肥料・無農薬のコメや玉葱などを栽培している。
〇カシオ計算機株式会社と全国で初めての取組「一反パートナー」を平成２９年にスタートさせ、４０名の社員と家族が田植え・稲刈りを体験。
〇農協から譲り受けた機械類でライスセンターを運営し、地域の農家から乾燥調整作業を受託している。
〇コメ苗の委託販売は苗床約２千枚に達している。
〇一般就労移行者も輩出している。

菜の花事業所室内

ライスセンター内

（３）社会福祉法人 土穂会　ピア宮敷

法人概要			
所在地	千葉県いすみ市岬町岩熊１３８－１０		
代表者	理事長　内野浩二	法人創立年	平成１２年
主産品	菜花、切干大根、ごま油	耕作面積	１.５ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇ピア宮敷では４千坪の菜花畑を有しており、ＪＡいすみが扱う量の５０％を出荷している。収穫は１月中旬から３月中旬。３月以降はパクチー栽培に移る。
〇菜花栽培農家が減少する中、地域の菜花栽培維持を期待される同法人は、ノウフク・アワード２０２２フレッシュ賞を受賞した。
〇菜花の圃場の隣に「循環型酪農」の高秀牧場があり、酪農体験やチーズ・ジェラート等の乳製品を揃える「ミルク工房」も運営している。
〇菜花栽培は以前高秀牧場が行っていて、４年前ピア宮敷に事業譲渡された。今でも夏場は同じ畑を使って高秀牧場が飼料用トウモロコシを作っている。
〇冬季の作業として、切干大根の製造を行っている。
〇讃岐うどん店「どんちゃん」を運営しており、利用者の就労支援の場になっている。
〇純正ごま油を製造し、いすみ市内の土産店などで販売している。ごま油の作業工程は時間を要し、製造は１日６kg（ビン２４本分）。

ぴあ宮敷第１工房

菜花畑

ごま油搾油室

どんちゃんに飾られている絵

（４）埼玉福興 株式会社

法人概要			
所在地	埼玉県熊谷市弥藤吾２３９７－８		
代表者	代表取締役　新井利昌	創立年	平成８年
主産品	葱の苗、オリーブ製品	耕作面積	４ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇農福一体のソーシャルファームの理念のもと、障害者にとどまらない多様な人々に働く場をつくり、結果として地域農業の中心的な役割を担っていることが評価され、ノウフク・アワード２０２０優秀賞を受賞。
〇種・肥料・資材のモリタネ社と提携し、葱・玉葱苗を生産。農家 300 軒、福祉施設７法人に出荷している。
〇特筆すべき取組として、イーピービズ社（医薬品関連業イーピーエス社の特例子会社）に事務所・作業所を賃借し、社員となる障害者も供給（埼玉福興運営のグループホームに居住）。そのうえで農作業を委託するという他に例のないビジネスモデルを展開。
〇オリーブ畑を持ち、実を搾ったオイルは世界的な賞を受賞している。
〇多岐にわたる高次元の取組は、すでに多くの分野からスタディツアーを受入れている。埼玉北部という東京からの距離も手伝い、最良のスタディツアー設定候補事業所と言える。
〇新たな取組として「藍染」に力を入れている。自前の藍を畑で栽培し、工房でストールなどの製品も染めている。

オリーブ畑

小学校の体験学習に使う田んぼ

特例子会社の社屋

藍染したストール

（５）ＮＰＯ法人 支援センターあんしん

法人概要			
所在地	新潟県十日町市高田町３丁目西３７１		
代表者	会長　樋口功	法人創立年	平成１４年
主産品	コメ、さつま芋、エゴマ	耕作面積	3,800 ㎡

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇荒廃地を水田に蘇らせ、農薬無散布の「魚沼コシヒカリ」を栽培。
〇雪国新潟で育つ甘い大根を原料にした切干大根を製造。１袋 298 円。皮をむいて白色の切干を作っており、全国シェア９割を超える宮崎産より高値で売れる。同じ乾燥機を使ってカップ麺のかやくも作っている。
〇トイレットペーパー製造で年間約４千万円の売上。主には、国や地方公共団体が率先して障害者就労施設からの物品等の調達を推進するよう定められた障害者優先調達推進法に基づき、近隣の公共施設が購入している。また、内約１千万円がふるさと納税による売上。
〇宿泊施設「交流館」は、雪国に適した、新潟の農家などで伝統的な「セイガイ造り」の豪邸。信濃川を一望できる展望テラスで頂く朝食は格別と評判。
〇越後妻有（つまり）（十日町市、津南町）で開催され、一年を通じてアートを媒介に地域の価値を発信している「大地の芸術祭」。３年に一度開催されコロナ前は５０万人超の来場者。常設展示も多数あり、農福体験ツアーに付加する地域の魅力として絶好の素材。

立派な佇まいの「交流館」

テラスからの眺望（雪に隠れているのは田んぼ）

乾燥野菜製造の工房

乾燥野菜を製造する乾燥機

（６）京丸園 株式会社

法人概要			
所在地	静岡県浜松市南区鶴見町３８０－１		
代表者	代表　鈴木厚志	法人創立年	平成２６年
主産品	姫みつば、姫ねぎ	耕作面積	２.６ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇言わずと知れた農福連携の農業者側の大家。誰もが参画できる農業「ユニバーサル農業」を提唱し、農業経営に立脚した農福連携を標榜する。
〇京丸園は、農林水産祭天皇杯、日本農業賞大賞、ノウフク・アワードグランプリ他、数々の受賞歴を誇る農業界のトップランナーのひとり。
〇京丸園で作られる野菜は全量市場出荷。
〇あいがも農法によりコシヒカリ・あきたこまちを栽培。ＪＡのファーマーズマーケットで販売している。
〇株式会社ＩＣＴひなり（ＩＴ企業の特例子会社）が雇用する障害者を受入れて、農作業請負の農福連携が行われている。
〇2024 年に浜松市ユニバーサル農業研究会が２０周年を迎えるのに合わせ、「小さな農家の生きる道」と題してフォーラムの開催を計画している。

ハウス外観

ハウス内の様子

ラベル貼りの様子

ちんげんの定植

（７）社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会　さんさん山城

法人概要			
所在地	京都府京田辺市興戸小モ詰１８－１		
代表者	施設長　新免　修	開所年	平成２３年
主産品	茶、なす、えびいも	耕作面積	１.２ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇聴覚障害者らが「京の伝統野菜」を守り、地域活性化に貢献していることを評価され、ノウフク・アワード２０２０優秀賞、ノウフク・アワード２０２１グランプリを受賞。
〇宇治茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京の花菜、京都田辺茄子などの地域特産品を継承している。
〇季節ごとに農作業があり、１年を通して体験が可能である。特に春から秋が豊富にある。
〇農作業以外に、抹茶粉末入りの大福・クッキー作りを体験できる。
〇地域住民に人気のコミュニティカフェでは、さんさん山城で栽培した京野菜を使ったワンコインランチが食べられる。
〇コミュニティカフェでは、茶道裏千家の先生による「呈茶企画」が月に１回催される。
〇さんさん山城はノウフクＪＡＳの認証第１号事業所であり、農産物や加工品のパッケージで積極的にそのブランド化を推進している。

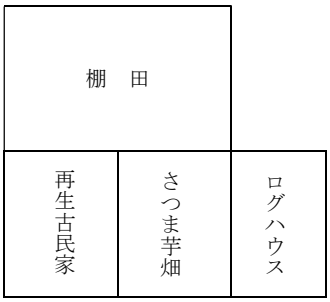
数々の受賞	万願寺とうがらし
里芋の調整	
ずいき	

（８）社会福祉法人 青葉仁会

法人概要			
所在地	奈良県奈良市杣ノ川町５０－１		
代表者	理事長　榊原　典俊	法人創立年	平成３年
主産品	さつま芋、ブルーベリー	耕作面積	１２ha

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇地域密着型ノウフクが評価され、ノウフク・アワード２０２０審査員特別賞を受賞。
〇法人のコンセプトは「地域をデザインする」。運営の目的は人口流出防止。利用者約 200 名が様々な業務に従事。
〇事業規模を示す一例として、店舗のレジ通過顧客数７万人、さつま芋１５ｔ生産。荒廃茶畑を開墾したブルーベリー園は現在約２千本、収穫量１２ｔに及ぶ。
〇古民家１棟、ログハウス２棟、ペンションも所有。
〇上記以外にも、棚田、木工所、紙すき、せっけん工場、カフェ、ジェラート工房等々多彩な事業を展開。
〇アウトドア用品ブランド「モンベル」と提携した店舗も運営。
〇行政からの要請で、廃校の小学校を改修して令和５年４月にレストラン、加工場、各種体験ができる場をオープン。
〇農業生産、加工、店舗運営、宿泊施設と地域の基幹的な事業法人。「太安万侶と青葉仁会はこの地の誇り」という地元の方の言葉にも納得。



（９）社会福祉法人 博愛会　住吉浜リゾートパーク

法人概要			
所在地	大分県杵築市守江１１６５－２		
代表者	園長　釘宮　浩三	開所年	平成２２年
主産品	いちご	耕作面積	1,500 ㎡

当該法人の特色（現地視察から得た情報等）

〇博愛会本部は大分市に所在し、県内に８ヶ所の事業所を運営する（高齢者施設１ヶ所含む）。
〇博愛会では、初代理事長が唱えた「人の喜ぶ顔を見て喜びなさい」という理念の基、「やさしさ日本一の社会福祉法人」づくりを進めている。
〇住吉浜リゾートパークは、ホテルを中心にゴルフ場、海水浴場、海鮮バーベキューレストラン、いちご観光農園等を有する総合レジャー施設。
〇農福体験としては、いちご農園での農作業のほかに、併設するジェラート工房の仕事も就労体験として可能である。
〇就労体験としては、ホテルのベッドメーキング等のバックヤード業務も適当である。
〇海鮮バーベキューレストラン「ＫＩＴＳＵＫＩ　ＴＥＲＲＡＣＥ」は、守江湾を一望する日本最大級のモダンな「カキ小屋」。飲食店が苦戦したコロナ禍でも西日本有数の集客力を誇り、年間５万人が訪れたという人気店。

ハウス外観	別府湾に臨むビーチ
ハウス内	
ジェラート工房	

３．事業実施結果の検証及び今後の方向性等

（１）結果検証

①　当初設定の新幹線等を使って都市部から地方部へ移動する体験モデルが今回集客できなかったことについての検証

ア　今回集客できなかった理由（仮説）

（ア）募集を要請した都市部の「育成会」メンバーにとっては、農業というものに対する物理的・心理的距離が思いのほか遠く、障害者の就労としてイメージできていない。農福連携に馴染みがない。

（イ）主催者としては、今回の企画は補助率が高く、非常にお得感があると考えていたが、職業体験のために支払う金額としては高額に感じられたようである。実際に育成会の方から、「数千円でも出さない。」というコメントがあった。

（ウ）募集期間が短く、十分に情報が行き渡らなかった。

（エ）育成会のメンバーの子供は、比較的年齢が高い者が多く、今回のターゲットとして適当ではなかった。実際に、「若い世代の親はネットで自在に情報を得られるので、育成会に入らない人が多い。」というコメントが、ある福祉事業者からあった。

イ　課題として認識したこと

（ア）特別支援学校の就業体験の取組として考えた場合、東京以外は都市部といっても同県内に農地があるため、県を越えて出向くということにならないこと。

（イ）就業体験である場合、当事者の親の反応として、参加費数千円でも抵抗感があるということが一般的な感覚であるらしいこと。

（ウ）農業を職業にできるかどうかという、当事者と親にとって切実な事柄である職業体験と、物見遊山である観光がアンマッチであること。

②　同一地域内在住の当事者が取組主体に出向いて農作業を行う取組を今後進める上での検証

ア　さんさん山城において３組の親子が集まった理由

（ア）福祉事業者と学校に以前から関係性があり、また、さんさん山城自体の取組が評価されているので、学校側が積極的に動いてくれたこと。

（イ）３組中２組は、以前にさんさん山城で就労体験をしており、参加者親子に、この施設で働く、ということのイメージが湧いていること。

イ　課題として認識したこと

（ア）一部の学校の先生は、学校内で自ら提案するのではなく、上席者からの指示に基づいて展開したいという要望があったので、次の機会には

組織的に要請すべきと考えた。

（イ）交通機関で移動し、宿泊も伴う行程でないと民間事業者（旅行会社）が事業化する案件になりづらい。将来的な移住までを視野に入れた、入口としての農福体験＋宿泊という建て付けならば成立する可能性があるが、その情報流通ルートが新たな課題として浮上する。

③　スタディツアーを今後進めるうえでの検証

ア　今回４事業所の募集が奏功した理由

（ア）埼玉福興については、多種多様な高レベルの取組が展開されている中で、触法者の農福連携が保護司会や更生保護団体にマッチしたこと。

（イ）ゆずりは会菜の花については、ＪＡグループ全国機関に農福連携を支援していこうという事業ニーズが萌芽し始めたところであり、学びの機会提供が歓迎されたこと。

（ウ）京丸園と博愛会については、農福連携技術支援者という農福連携に携わっている、又はこれから携わるというメンバーであり、学びのニーズが潜在していたこと。

イ　課題として認識したこと

（ア）将来的には、誰もがアクセスできる「農福連携視察受入事業所データベース」があると、農福連携の広がりに資する。

（イ）福の広がりということで、高齢者や生活困窮者等の関係事業所も加わるとより充実する。

（２）今後の方向性等

①　遠距離移動の農福体験

（ア）障害者当事者の体験ということであれば、親子・家族での移住を視野に入れ、農福体験と当該地域全体を知る、というニーズに応える内容に整理すること。加えて、マッチする提案ルートや連携先を研究し、今年度事業で結果が出なかった領域の打開策とする。

（イ）これから農福連携に取り組もうとしている福祉事業所、企業等が先進事業所に出向き、職員自らが実体験するというニーズを掘り起こす。

②　同一地域内の農福体験

域内募集は、受入事業所とつながりのある特別支援学校に、県教育庁ルートで要請することを基本とする。施設職員から、先生向けの説明会や体験会も有効ではないかとの意見があったほか、大阪の先生からモニターツアーを希望する声もあった。

就労する年代にこだわらず、幅広い年代の児童や生徒の体験受入について施行する。特に、首都圏において、小学校や中学校の特別支援学級の農業体験についても、検討する。

③　スタディツアー

法人、行政、大学等に対して行ういわゆる「一本釣り」の提案と、それらの横断組織に「混載型」で提案する２通りの形で進める。

ツアー実施先を中心とした情報を集約し、発信のための web ページを構築する。これにより旅行会社、障害者メディア、農業系メディア等への情報発信を行うとともに、農福連携の一般向けの情報発信、体験実習やスタディツアーのマッチングの推進ツールとして活用する。障害種別での配慮、受入体制等を整理し、表示することにより、当事者の参加への心理的なハードルを下げる。

農福連携の優良先行事例となっているノウフク・アワードの受賞事業所等では、視察や見学が増え、事業所運営上の負担となっているケースも出始めている。受入に関し、料金体系を設定した上で、事業の収入と利用者工賃へとつなぐ仕組みづくりと、視察者への理解の促進に取り組む。

少人数での視察受入は催行日を集約し、参加者同士の交流を図ることも、農福連携の学びの機会としては貴重であり、受入事業所の負担軽減につながる。

以　上